

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	コマンド	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.513	△RG	0.053	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：コマンド

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

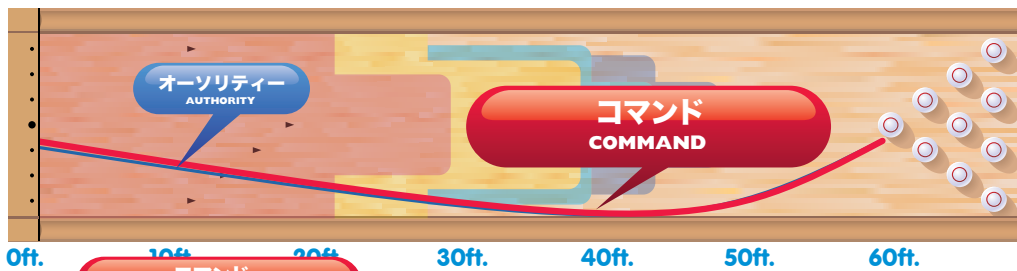
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：オーソリティー

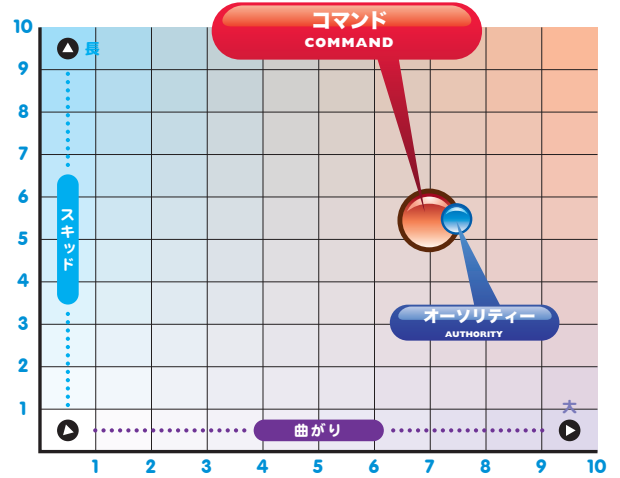
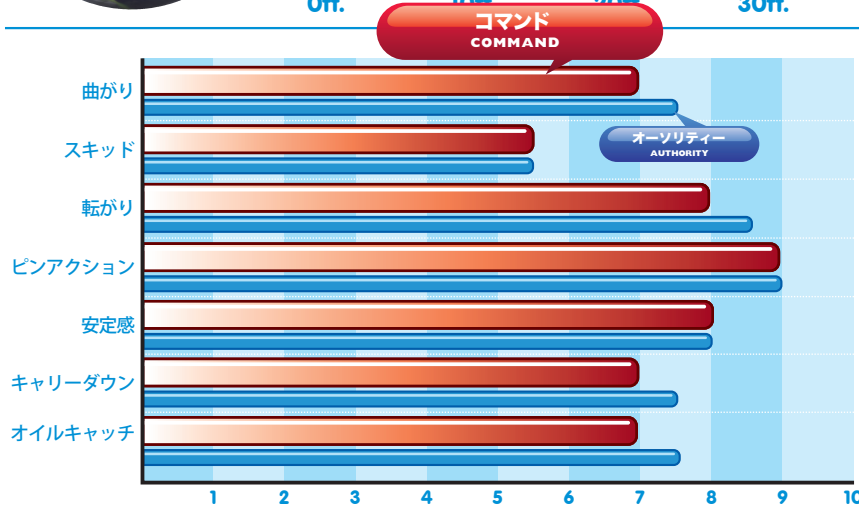
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- パフ



ボールの評価

COLUMBIA社はブランズウィック社の傘下に入ってから、ミディアムオイル対応のボールからヘビーオイル対応のボールまでをリリースしてきました。その中でミディアムからミディアムヘビー用でポリッシュ仕上げの領域を担っていたのがAUTHORITYでした。今回のCOMMANDはその領域を担うもので、新コアテクノロジーと新カバーストックの組み合わせの発表になります。まず一番に目を惹かれるのがA.R.S(Angular Reactive System)というパール系の新素材。かなり光沢良く磨かれた表面仕上げもありますが手前の軽さを感じるスキッド力があります。その心臓部に入るのがMovement Asymmetrical Coreと呼ばれるNew Core。2.513RG 0.053DIFF 0.021INTでRGが中目の慣性ですがディファレンシャルとマスバイアス数値が高く、大きなネジレを作る設定です。

比較投球は同じ領域のAUTHORITYと行いましたが、両者ポリッシュ仕上げなので領域的には同じぐらいですが、パフォーマンスの出方はやや違い、同じラインの投球だとAUTHORITYは中盤から強めのネジレを感じるのに対し、COMMANDはそれよりもやや奥で動きを出そうとするエネルギーを感じました。私にとってはミディアムヘビーというよりはミディアムに近い領域に感じますが、オイルが薄いラインに合わせると噛みあがりが強くてますので、やはりややオイルを使いながらの投球が必要になります。

私がこのボールをベストな状態で投球するのであれば、光沢のある表面仕上げをやや落として使用するのが最も効果的だと思います。表面の光沢をやや落としたほうがブレーキングも明確になりますし、しっかり曲がる安心感もありました。回転数がやや多めの方は箱出しのままでも十分幅を取りながら投球できますので、自分なりにカスタマイズすることも視野にお考えください。

特記事項

光沢のある加工でやや軽めのスキッド力が魅力。
ドライエリアでの反応は強いので、オイルがないところに向けてのライン取りが投げやすいです。